

令和元年度 千葉県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 進捗状況(令和元年11月末時点)

1 必須事業

保健所	区分	事業名	実施回数	来所実数	来所延数	事業目的・内容	①対象者 ②出席者数 ③会場 ④時間 ⑤周知方法 ⑥受付方法	評価・事業の効果	従事者(1回あたり)	
									職種	人数
市川	療育相談指導	小児慢性特定疾病指定医療費助成制度申請時面接および訪問	随時	70	103	目的および内容 小児慢性特定疾病指定医療費助成制度申請時等に面接および訪問し相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者および受給者とその家族 ②左記のとおり ③市川健康福祉センター、対象児宅、対象児が入院する病院 ④随時 ⑤医療費助成制度申請時 ⑥医療費助成制度申請時に、了承を得られたケースに実施する。また、家族の希望時に対応する。	助成制度新規申請時ならびに更新申請時に面接を実施しており、療養状況について確認、必要な支援を保護者と検討し、状況に応じて自宅訪問、関係機関との連絡調整などを図る機会としている。また医療的ケア児を対象とした災害時体制について保護者と確認している。 対象者との信頼関係づくり、必要な支援を対象者と共に考えることのできる貴重な機会となっている。	保健師(HC)	2
松戸	療育相談指導	小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時面接および訪問	随時	550	576	目的および内容 小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時等に面接および訪問し相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者および受給者とその家族 ②左記のとおり ③松戸健康福祉センターならびに対象児宅 ④随時 ⑤制度申請時に案内 ⑥制度申請時に面接の了承を保護者にもらい受付。訪問は地区担当保健師が必要と判断したとき、また家族の希望時に受付。	助成制度新規申請時ならびに更新申請時に面接を実施しており、療養状況について確認、必要な支援を保護者と検討し、状況に応じて自宅訪問、関係機関との連絡調整などを図る機会としている。また医療的ケア児を対象とした災害時体制について保護者と確認している。 対象者との信頼関係づくり、必要な支援を対象者と共に考えることのできる貴重な機会となっている。	保健師(HC)	1
松戸	療育相談指導	小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時面接(療育指導連絡票持参者)	随時	上記含まず 4	上記含まず 4	目的および内容 療育指導連絡票を持参した小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者等とその家族の療養上の不安解消を図るため、医療機関からの療育指導連絡票に基づき、必要な内容について相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成制度申請者および受給者とその家族 ②左記のとおり ③松戸健康福祉センター ④小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時(随時) ⑤県担当課より周知 ⑥申請時に療育指導連絡票が添付されている場合に対応	面接実施対象者の3件は昨年度も療育指導連絡票提出しており、継続して療養状況把握することができた。医師が依頼する療育指導について連絡票をもとに保護者等に確認し、指導を実施した。	保健師(HC)	1
松戸	療育相談指導	小児慢性特定疾病児童等訪問相談員事業	随時	1	1	目的および内容 小児慢性特定疾病児童等訪問相談員が自宅へ訪問し、必要な内容について相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成制度受給者とその家族 ②左記のとおり ③対象児宅 ④随時 ⑤地区担当保健師が必要と認めた場合に個別に案内 ⑥家族の希望時に受付	自宅という住み慣れた空間の中で話ができることや専門職に話ができることから、家族の日ごろの困りごとや、ケアの事についても解決の一助につながっている。	栄養士	1
野田	療育相談指導	IBD講演会	1	4	4	目的 食事は成長期の子どもにとって重要なことであるが、クローン病や潰瘍性大腸炎は食事制限等もあり、悩んでいる保護者がほとんどである。平成30年度、小児慢性及び指定難病の受給者140人から得た療養アンケート結果から、栄養教室に興味があることや、食事面の工夫に苦労していること等がわかった。このことから、栄養面に関する相談事業が必要なことが把握できた。 BDで治療を行っている患者と家族が、食事の工夫を行い、栄養療法を継続できることを目的として講演会及び講演会を実施した。 内容 1 講演 「おなかも心も満足！お手軽ノンオイル料理」 講師 料理研究家(栄養士) 田中加奈子氏 2 交流会	①最近5年以内に小児慢性特定疾患または指定難病の受給者認定を受けた野田市在住のIBD患者及びその家族 ②4名 ③野田健康福祉センター 2階会議室 ④10月21日(火)13時30分～16時 ⑤対象者に個別通知(小児10名、指定難病66名) ⑥保健所に電話申込	本講演会は2部構成で実施。1部はIBDの食事を中心に料理研究家(栄養士)に講演依頼。2部は、ちばIBD(患者会)の方をファシリテーターとし患者交流会を行った。講師は、IBD患者を子にもちIBD患者家族としても理解のある料理研究家を選定した。 今回は、対象を5年以内に小児慢性特定疾患・指定難病の受給を受けた方と限定した。参加者から不安の解消・軽減ができた、食事についてポイントが再確認できてよかったと感想であった。 参加者からは好評を得たが、参加者が少なかったことなどから、時間帯の工夫や対象疾患や対象者の選定等に工夫が必要である。	料理研究家(栄養士) IBD患者会代表 保健師(HC) 管理栄養士(HC)	1 2 2 1
印旛	療育相談指導	訪問相談員支援事業	5	5	5	目的 小児慢性特定疾病児童等訪問相談員が抱える日常生活上の悩みについて、軽減し安定した療養生活を過ごすことができるようにする。 内容 訪問相談員を派遣し、個別の相談、指導、助言等を行う。	①小児慢性特定疾病児童 ②6名 ③6月26日、7月19日:理学療法士 7月19日、10月4日:社会福祉士 8月20日、12月17日:言語聴覚士 ④対象者と相談 ⑤対象者に直接連絡 ⑥電話等	退院直後や、他にサービスを受けていてもセカンドオピニオンとして助言を受けることで療養生活における不安の軽減につながった。	理学療法士 社会福祉士 言語聴覚士	1 1 1
香取	療育相談指導	訪問相談員派遣事業	4(実施済み1予定3)	2(実施済み1予定1)	4(実施済み1予定3)	目的: 医療依存度の高い在宅の小児慢性特定疾病児童等とその家族の療養生活支援のために、相談員による訪問を実施する。 内容: 保健師を訪問相談員として派遣し、小児慢性等やその家族が抱える日常生活上の悩みについて、プライバシーに配慮しつつ、個別の相談、指導、助言等を行う。	①医療依存度の高い在宅の小児慢性特定疾病児童等 ②対象児童2名 ③小児慢性等自宅 ④1時間程度 ⑤対象者に直接連絡 ⑥実施対象者との面接、電話	訪問相談員を派遣することで日頃抱えている悩み・育児等についての相談相手となることができた。また保健師も同行訪問することで、自宅での療養状況の把握と課題について把握することができた。	保健師	1

山武	療育相談指導	小児慢性特定疾病児童等の家族に対する個別支援	随時	2	2	目的・内容 日常生活上での悩みや不安解消等を目的に、療育指導連絡票に基づき、小児慢性特定疾病児童等の家族に対し必要な内容について相談を行う。	①小児慢性特定疾病児童等の保護者 ②2名 ③山武健康福祉センター、対象児宅等 ④随時 ⑤県担当課より周知 ⑥医療機関から療育指導連絡票が提出された場合に対応	小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時に面接を実施し療養状況や保護者の受け止め等について確認。児の経過をみながら、退院後の療養生活を整えていく方針とした。	保健師(HC)	1
山武	療育相談指導	炎症性腸疾患講演会及び個別相談	1	2	2	目的 講演をとおして炎症性腸疾患療養者とその家族を対象に病態に関する正しい知識や食生活に関すること等について情報を得ることにより、よりよい療養生活を送れることを目的とする。 また、講演会終了後希望者に対し、医師による個別相談の場を設け、より具体的に相談できる場を設定し、問題解決を図る。 内容 講演1:炎症性腸疾患の基礎知識と最新情報 講師:医療法人社団康喜会 辻中病院柏の葉 消防器内科部長 竹内 健 氏 講演2:炎症性腸疾患寛解期の食事 ～家庭での食事・外出先での食事～ 講師:医療法人社団康喜会 辻中病院柏の葉 栄養科 管理栄養士 佐藤 沙織 氏	①炎症性腸疾患の指定難病、小児慢性特定疾病医療受給者等 ②19名(内、小慢家族2名) ③山武健康福祉センター ④令和元年11月11日 午後2時から4時30分 ⑤指定難病、小児慢性特定疾患医療費助成制度申請者宛て郵送にて通知 ⑥FAX又は電話	講演会では医師から最新医療や食事のとり方等について、管理栄養士から調理のポイント等についてお話しいただいた。その後、希望者に対し医師による個別相談を実施。相談者は具体的な疑問、悩み等について話すことで、療養生活を続けるうえでのヒントを得る機会となった。	医師 管理栄養士 保健師	1 3 3
夷隅	療育相談指導	小児慢性特定疾病医療費助成制度申請時面接	随時	17	17	小児慢性特定疾病医療費助成制度を受給する方とご家族が療養上の不安を解消し、病気を持ちながらその方らしく過ごせることを支援する。 申請時に保健師が面接を行い、不安や心配ごとなどに対して相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成制度を受給する児童とその家族。 ②左記のとおり ③夷隅健康福祉センター ④随時 ⑤申請案内リーフレットに記載、及び申請時に直接声掛けを行う。 ⑥申請時、全例に対して面接の声掛けを行い、了承を得られたケースに対応する。	申請に来所したケースにはほぼ全例で面接を実施し、療養状況を把握した。面接等で支援が必要であると判断したケースに対しては、訪問や連絡調整などの継続支援を行った。	保健師(HC) 看護師(HC)	1 1
君津	療育相談指導	療育相談事業	随時	7	7	小児慢性特定疾病医療費助成申請者が持参した療育指導連絡票に基づき、保健師が訪問・面接等により相談を行う。	①小児慢性特定疾病医療費助成申請者及びその家族 ②6人 ③相談者自宅、君津健康福祉センター ④随時 ⑤全員に用紙を配付 ⑥申請時に療育指導連絡票が添付されている場合に対応	面接実施対象者は、昨年度から療育指導連絡票を提出しているかたが多く、継続的に療養状況の把握及び支援ができた。	保健師(HC)	2
君津	療育相談指導	潰瘍性大腸炎患者と家族のつどい	1	7	7	目的 潰瘍性大腸炎患者及び家族が正しい知識を得ることにより、療養上の不安の解消を図り、よりよい生活がおくれることを目的とする。 内容 講演1 「潰瘍性大腸炎とうまく付き合うために知っておきたいこと」 講師:東邦大学医療センター佐倉病院 消化器内科教授 松岡克善氏 講演2 食事のとり方のポイント 講師:ほたるのセントラル内科 管理栄養士 江尻喜三郎 氏	①小児慢性特定疾病医療費助成申請者のうち潰瘍性大腸炎で申請している方 ②6組7名 ③君津健康福祉センター 大会議室 ④令和元年11月30日(土) 午後2時～午後4時 ⑤個別通知 県ホームページへの掲載 ⑥電話による申し込み	受給者の約半数にあたる7組の参加があった。事後参加者が正しい知識を得ることにより、疾病等に対する不安の解消を図り、安定した療養生活の確保と生活の質の向上に資することを目的に開催したが、一定の効果が得られたものと思われる。	医師 栄養士 保健師(HC) 栄養士(HC)	1 1 3 2
印旛	ピアカウンセリング	長期療養児交流会	1	35	35	目的 長期療養児とその保護者の疾患に関する知識の向上、家族同士の情報交換等により不安の軽減を図る。 内容 (1)講話 1:療養生活と福祉サービスの利用について 下志津病院 医療社会事業専門員 川口由紀子氏 2:下志津病院の短期入所の利用について 下志津病院 主任児童指導員 高原和恵氏 3:心を育むお父さんとのコミュニケーションについて 市川ことばの会理事長 野島洋子氏 4:「フラミンゴ隊(tai)～障がい児者のコミュニケーションを支援する会～」の紹介 フラミンゴ隊 隊員:矢澤博美氏、金川恵里氏 (2)レクリエーション:下志津病院保育士 阿部光子氏、天沼みどり氏 溝口あゆみ氏、三上恵氏 (3)保護者交流会 (4)スノーズレン体験	①小児慢性特定疾病受給中の気管切開及び人工呼吸器装着等重症度の高い小学生以下の児童とその保護者等 ②患者家族11名、関係者24名 計35名 ③下志津病院 ④令和元年11月13日 午前10時～12時 ⑤対象者に個別通知 関係機関へ周知 県ホームページへの掲載 ⑥FAX又は電話、メール等にて申込み	今年で4年目を迎え、会の存在が患者、関係者にも交流会を楽しみにしていただいている様子が見られた。患者家族からは様々な情報を得られる機会となり、同じ悩みをもつ保護者同志でとても支えられる場となっている。交流会へ来ること自体がとても勇気のいることだったが、参加してよかった、今後もぜひ続けてほしいとの声が聞かれた。関係者からは小児を対象の訪問看護にまだ取り組めていないが今回参加しているのと知ることができてよかった。(訪問看護)等交流会に参加して長期療養児の支援を考える機会となりましたとの声が聞かれた。様々な不安や悩みを一人で抱えずに相談できる場が地域にあるということを伝える場として関係機関や先輩保護者の方と常に協力しながら継続していく必要を感じている。	保育士 主任児童相談員 医療社会事業専門員 言語聴覚士 家族会 保健師(HC) 管理栄養士(HC)	4 1 1 1 2 4 1
印旛	ピアカウンセリング	保護者向け講演会	1	20	20	目的 長期療養児とその保護者の疾患に関する知識の向上、家族同士の情報交換等により不安の軽減を図る。 内容 講演「えがおの宝物～進行する病気の娘が教えてくれた人生で一番大切なこと～」 講師 一般社団法人障害攻略課理事 加藤さくら氏	①小児慢性特定疾病受給者とその保護者及び関係者 ②患者家族10名、関係者10名 計20名 ③印旛合同庁舎 ④令和元年8月27日 午前10時～正午 ⑤対象者に個別通知 関係機関へ周知 県ホームページへの掲載 ⑥FAX又は電話、メール等にて申込み	長期に療養される患者家族、関係者への精神的支援の機会とすることができた。アンケート結果からも参加してよかった、感動したなどの意見が多くみられ、障害のあるお子さんの家族の思いを理解し、バリアフリーな社会環境の構築の大切さを感じ考える機会となった。	(社)障害攻略課理事	1

長生	ピア カウンセリング	ダウン症児等 親の会 (くれよんの 会)	3	15	28	目的 当事者の親の会の先輩保護者による、悩みの共有を行うことによる不安の軽減を行うと伴に、会の完全な自主組織化に向け、運営について最終確認を行い、会がボランティア等と協力し、主体的に集いを運営できる。 内容 ・先輩ママによる講話、情報交換 ・自主組織化に向けた情報提供	①対象者:ダウン症児とその家族 ②出席者数:延べ28人 ③会場:長生合同庁舎内会議室 ④日時・時間:奇数月の第2水曜日 10時~正午(年6回) 令和元年5月8日、年7月10日、11月13日 (今後の開催予定) 9月は災害のため中止。振替は12月11日 令和2年1月8日、3月11日 ⑤周知方法:連絡網による連絡 関係機関には文書通知 ⑥受付方法 会員は会長が取りまとめ保健所へ報告 市町村からの申し込みは保健所へ担当保健師もしくは、当事者より電話	出生したばかりの乳児に対し、当事者の保護者としての経験を活かし、寄り添うことで新規見学者は、「力になった」「子育てに希望が持てた」と話し、今年度は3人新規入会者があった。 当会は、発足後20年が経過をし、参加者の固定化や減少が課題となっていたが、地域で出生する新たなダウン症児の親にとっては、貴重な先輩保護者であり、悩みを打ち明けられる場として機能している。 そのため、会で行うリクリエーション的なお楽しみの部分は会独自で運営をし、ピアカウンセリングの部分は、次年度必須事業として継続を検討している。	保健師(HC)	2
山武	自立心の 育成事業	小児慢性特 定疾病児童 等の個別支 援	随時	1	2	内容・目的 小児慢性特定疾病児童等の自立促進を図ることを目的に、症状の自覚及び周囲との関わり方など心理面の相談を行う。	①小児慢性特定疾病児童等 ②実1名、延2名 ③山武健康福祉センター、対象児宅等 ④随時 ⑤保健師が個別に関わり、必要だと判断した場合に連絡 ⑥個別に対応	対象児童に対し訪問をし、病気の進行や治療に伴う学業や友人関係等の悩みについて相談に応じた。本人から思いの表出があったことで、本人だけでは解決できない点は関係機関が対応し、環境を整えることができた。	保健師(HC) ケアマネージャー 相談支援員 市職員	1 1 1 1
習志野	学校、企業等 の地域関係者 からの相談へ の対応及び情 報提供	小児慢性特 定疾病児童 等自立支援 事業に係る研 修会	1	11	11	目的 医療を受けながら療養している小児慢性特定疾病児童の健全育成と支援者の質の向上、疾病についての理解促進を図る。 内容 講演:1型糖尿病のこどもたちを学校で見守るために 講師:まえたこどもクリニック 院長 前田泰宏氏	①管内小・中学校の教職員、教育委員会等関係職員、保健師等支援関係者 ②11名 ③習志野健康福祉センター 3階大会議室 ④令和元年8月29日(木) 午前10時から11時50分 ⑤関係機関への個別通知 県ホームページ掲載 ⑥申し込み様式によりFAXにて申込	参加者からは、実情と合っていて参考になった、子どもを診ている医師の話を聞ける機会が少ないのでありがたい、今後もこのような研修を受けたいとの声があり、研修会の内容としては良かったと思われる。しかし、対象の教職員の参加しやすさを狙い、夏休み期間で計画をしたが、参加者が少なかった。開催時期や周知についてより調整が必要。	看護師 保健師(HC)	1 4
松戸	学校、企業等 の地域関係者 からの相談へ の対応及び情 報提供	令和元年度 小児慢性特 定疾病児童 等自立支援 事業支援者 研修会	1			目的 母子保健活動を担っている市町村保健師等を対象に、長期療養が必要となる小児慢性特定疾病児と家族の支援について知識を深め、今後の支援の一助としてもらう。 内容 演題:「親やきょうだいの気持ちを理解するために」 講師:明星大学 人文学部 福祉実践学科 教授 吉川かおり	①管内市保健師 ②30名程度 ③松戸健康福祉センター ④令和2年2月24日(金) 午後2時~午後3時30分 ⑤文書で通知 ⑥FAXで受付	令和2年2月24日(金)実施予定	大学教授	1
印旛	学校、企業等 の地域関係者 からの相談へ の対応及び情 報提供	講演会				目的 保健従事者、教育関係者等長期療養児に関わる関係者の知識や技術の向上、連携強化により長期療養児の地域における生活支援の充実を図る。 内容 講演:小児在宅歯科医療の必要性について ~支援者に知ってほしいこと~ 講師:いづか歯科クリニック院長 飯塚真司氏	①保健師、障害福祉担当職員、病院、診療所、訪問看護ステーション 障害福祉サービス事業所等の関係職員 ② ③印旛合同庁舎 ④令和2年1月9日 午後2時~4時 ⑤対象関係機関へ周知 県ホームページへの掲載 ⑥FAXによる申込	令和2年1月実施予定	歯科医師	1
海匝	学校、企業等 の地域関係者 からの相談へ の対応及び情 報提供	講演会	1			目的 成長ホルモン分泌不全低身長症は、早期発見、早期治療に繋げることが児の成長発達にとって重要であると言われている。しかし、早期発見に繋がらず、治療の適切な時期を過ぎてしまい治療困難となるケースも少なくない。また、脳腫瘍等早期に治療が必要な疾患が影響を及ぼしている可能性もあるため、子どもたちに接する機会の多い、学校関係者及び各市保健師に対し、講演会を開催し、知識の普及を図り、早期発見、治療に繋げることができるための一助としたい。 内容 講演:低身長症の早期発見とホルモン治療について 講師:さんむ医療センター 小児科医長 石田直穂氏	①保育所・幼稚園、小中学校関係者、各市担当保健師 ②40人程度 ③調整中 ④令和2年2月19日実施予定 ⑤関係機関へ通知 ⑥FAX	令和2年2月実施予定	講師(医師) 保健師(HC)	1 2
山武	学校、企業等 の地域関係者 からの相談へ の対応及び情 報提供	令和元年度 小児慢性特 定疾病等自 立支援事業 講演会	1			目的 管内における医療的ケア児の療養支援の充実に向け、子どもの支援に関わる保健・医療・福祉・教育関係者等を対象に講演会を開催する。 内容 講演1:医療的ケア児を取り巻く現状と今後の課題 講師:愛育園園長 第一小児科部長 石井光子氏 講演2:医療的ケア児の就園に向けた実際の取り組み 講師:山武市保健福祉部子育て支援課 看護師 山本京子氏 講演3:医療的ケア児をもつ保護者として伝えたいこと 講師:小児慢性特定疾病児童の保護者 講演4:山武健康福祉センター管内の小児慢性特定疾病受給者の現状 講師:山武健康福祉センター 地域保健課 保健師	①児童福祉施設、学校教育機関、医療機関、訪問看護ステーション、市町等 ②約50名 ③山武健康福祉センター ④令和2年1月29日 午後2時~から4時15分 ⑤関係機関宛て郵送にて通知 県ホームページに掲載 ⑥FAXにて申込み	令和2年1月開催	医師 市職員 小児慢性特定疾病児童の保護者 保健師(HC)	1 1 1 4

長生	学校、企業等の地域関係者からの相談への対応及び情報提供	摂食嚥下研修会	1	20	20	<p>目的 小慢児童等を受け入れる保育所、学校等関係機関職員が摂食嚥下について、正しい知識を持ち、疾病について正しい理解の促進や相談支援のための情報提供を行う。</p> <p>内容 講演会：摂食嚥下基礎研修会 ～体験しながら「食べる」機能を考えよう～ 講師 千葉県千葉リハビリテーションセンター 摂食嚥下障害看護認定看護師 青木 ゆかり 氏</p>	<p>①対象者：管内学校・保育園等職員及び母子保健従事者、当事者とその家族 ②出席者数：20人 ③会場：合同庁舎内会議室 ④日時・時間：令和元年7月10日（水） 10時30分～正午 ⑤周知方法：関係機関へ通知 ⑥受付方法：FAXで申込み</p>	<p>摂食嚥下障害認定看護師の指導の下、参加者が実際にソフトせんべいを食べながら、障害児の摂食嚥下と健常児の摂食嚥下について体験をし、発達や障害に合わせた摂食方法について学習をする機会となった。 また、当事者の会からの出席もあり、地域の支援者に当事者の会の取組みについて周知する機会ともなった。</p>	<p>認定看護師 1 担当課長 1 保健師(HC) 2 管理栄養士(HC) 1</p>
安房	学校、企業等の地域関係者からの相談への対応及び情報提供	小児アレルギー疾患(気管支喘息等)研修会	1	38	38	<p>目的 「小児アレルギー疾患」を抱える患児とその家族が安心して日常生活を送ることができるように、保健・保育・教育等関係者等の支援者が小児アレルギー疾患の対応について正しい知識の習得を図る。</p> <p>内容 演題 「小児の気管支喘息、食物アレルギーなど」 ～日常生活での注意点や緊急時の対応～ 講師 亀田総合病院 小児科部長 伊東宏明</p>	<p>①保育園、幼稚園、こども園等関係者、小中高等学校関係者、市町保健師等 ②38人 ③安房合同庁舎 3階大会議室 ④令和元年8月5日(月) 午後2時30分～午後4時30分 ⑤対象機関に個別通知 県ホームページへの掲載 ⑥当センターあてFAXにて申し込み</p>	<p>「気管支喘息」で医療機関を受診したほうがよいサインや治療薬について学んだ。「食物アレルギー」については、緊急時の判断基準、迷ったときにはエピペンを使用してほしいことなどの話があった。(実技演習あり) 講演後アンケートでは、「アレルギー児の対応方法を知ることができてよかった」「エピペンを打つタイミングで迷った場合は打ってよいと知れてよかった」等の意見があり、今後の参考になったと思われる。</p>	<p>医師 1 看護師 1 保健師(HC) 3</p>
市原	学校、企業等の地域関係者からの相談への対応及び情報提供	I型糖尿病情報交換会(県こども病院との共催事業)	1	46	46	<p>目的 学校関係者向けに糖尿病の特徴と学校生活において配慮を要する事項について理解を深めることを目的に行った。</p> <p>内容 県こども病院職員による講演 ①千葉県こども病院におけるI型糖尿病患児の療養支援 講師：内分泌科医師 藪川逸郎 ②I型糖尿病の基礎知識 講師：内分泌科医師 森香子 ③血糖測定とインスリン注射 講師：糖尿病療養指導士(看護師) 實勲恵子 ④新しい電子デバイスについて 講師：内分泌科医師 島崎俊介 ⑤低血糖と体調不良時の対応 講師：内分泌科医師 木原牧子 ⑥給食と低血糖時の補食 講師：栄養科 大田康子 ⑦インスリン製剤と保管 講師：薬剤部 伊藤志帆 ⑧病気の受容支援と学校生活～CLSの関わり～ 講師：こども家族支援センター 大橋恵</p>	<p>①管内小中学校の教職員・保健師等 こども病院を受診している患児のいる学校・幼稚園・保育所等の教職員 ②46名 ③千葉県こども病院 ④令和元年7月20日 午後1時～午後4時 ⑤対象機関への個別通知 ⑥当センターあてFAXにて申し込み</p>	<p>I型糖尿病の特徴や対応方法、また学校生活での配慮事項では他の子と同じように具合悪そうなら声をかけ、同じように行事にも参加できる等について理解することができた。困った時や学校生活での対応方法等、病院への連絡方法の情報提供もあり、病院関係者への相談ルートを確認でき、顔の見える関係ができた。</p>	<p>医師 4 看護師 1 栄養士 1 薬剤師 1 チャイルド・ライフ・スペシャリスト 1</p>

2 任意事業

保健所	区分	事業名	実施回数	来所実数	来所延数	事業目的・内容	①対象者 ②出席者数 ③会場 ④時間 ⑤周知方法 ⑥受付方法	評価・事業の効果	従事者(1回あたり)	
									職種	人数
習志野	相互交流支援事業	相互交流会	1	25	25	目的 小慢児童等とその家族の交流を通じて、在宅療養生活の質の向上を図る。 内容 医療依存度の高い慢性疾患児童等と保護者、家族同士の交流	①鎌ヶ谷市在住の人工呼吸器等装着児とその家族 ②3家族11名、支援関係者14名 ③鎌ヶ谷市北中沢児童センター ④令和元年11月10日(日) 午後1時30分から午後3時 ⑤対象者への個別通知、支援関係者からの声かけ ⑥電話等による申し込み	鎌ヶ谷市で人工呼吸器を装着して在宅療養に入る児が続き、近くでの交流を望む声もあったことから、市保健師とともに支援をしてきた中で、一緒に交流会を開催することとなり実施に至った。児同士も大きく刺激を受けている様子がみられ、また、日頃の支援の中では接することの少ない父親やきょうだいの参加もあり、支援者側が家族の様子をみることもできた。情報交換をしたり連絡先交換をする姿も見られ、よいきっかけになったと思われる。	看護師 理学療法士 保育士 市障害福祉 保健師(市) 保健師(HC)	4 1 1 4 3 1
松戸	相互交流支援事業	「親子のつどい」	1	7	7	目的 児とその家族同士が情報共有をしながら交流を行い、児のQOLを高め、安心して療養生活を過ごすことができるよう支援する。 ・親子で保育士による歌や遊びを楽しみ、児への刺激を与えとともに母児の愛着形成を促す。 ・特別支援学校在校生の保護者から就学にあたっての経験を話していただくことで就学にあたっての不安を解消することができるよう支援する。 内容 1:発達を促す遊び 講師 千葉県千葉リハビリテーションセンター 保育士 小野亮子氏 2:交流会 助言者を交えて就学について	①小児慢性特定疾患受給者のうち、医療機器を使用している未就学児とその家族 ②対象者:1家族3名 助言者:2家族4名 計7人 スタッフ 病院:医師1名、看護師2名 市:管内(松戸市・流山市・我孫子市)保健師4名 保健所:7名 訪問相談員:1名 ③松戸市立総合医療センター会議室 ④令和元年5月25日(金) 午後2時～午後3時30分 ⑤対象者へ個別周知、松戸市立総合医療センターの医師、NICU、GCUの看護師が参加が望ましい児の保護者へチラシを個別配付 ⑥健康福祉センター宛てFAXにて申込み	体調不良により急きよ1家族での開催となった。 参加した家族は在宅療養を開始してまもないため講師と1対1で歌や遊びを通じて児への刺激を行いながら、児への愛着形成を促すかかわりを行った。家族にとって講師のコメントを配付資料に記載したり、抱っここの仕方などアドバイスを得ることができとても好評だった。 事前の参加者アンケートで就学について知りたいとの希望があったため助言者をまねき就学についての交流会を企画していたが参加希望者が欠席となったため保健師が聞き取りを行い、得た情報は保健師間で共有した。	保育士 保健師 養育経験者 医師 看護師	1 8 2 1 2
長生	相互交流支援事業	ダウン症児等親の会(くれよんの会)	3	15	28	目的 当事者の親の会の先輩保護者による、悩みの共有を行うことによる不安の軽減を行うと共に、会の完全な自主組織化に向け、運営について最終確認を行い、会がボランティア等と協力し、主体的に集いを運営できる。 内容 ・先輩ママによる講話、情報交換 ・自主組織化に向けた情報提供	①対象者:ダウン症児とその家族 ②出席者数:延べ28人 ③会場:長生合同庁舎内会議室 ④日時・時間:奇数月の第2水曜日 10時～正午(年6回) 令和元年5月8日、年7月10日、11月13日 (今後の開催予定) 9月は災害のため中止。振替は12月11日 令和2年1月8日、3月11日 ⑤周知方法:連絡網による連絡 関係機関には文書通知 ⑥受付方法 会員は会長が取りまとめ保健所へ報告 市町村からの申し込みは保健所へ担	出生したばかりの乳児に対し、当事者の保護者としての経験を活かし、寄り添うことで新規見学者は、「力になった」「子育てに希望が持てた」と話し、今年度は3人新規入会者があった。 当会は、発足後20年が経過をし、参加者の固定化や減少が課題となっていたが、地域で出生する新たなダウン症児の親にとっては、貴重な先輩保護者であり、悩みを打ち明けられる場として機能している。 そのため、会で行うリクリエーション的なお楽しみの部分は会独自で運営をし、ピアカウンセリングの部分は、次年度必須事業として継続を検討している。	保健師(HC)	2
市原	相互交流支援事業	在宅療養児(小慢及び障害児)の口腔ケアについて	1			目的 歯・口腔内の健康の維持増進により生活の質の向上を図るとともに、小児慢性特定疾患児童等及び保護者同士の交流を図る。 内容 講演 「在宅療養児(小慢及び障害児)の口腔ケアについて」 講師 歯科衛生士 田中綾子 実習指導 市原市子育てネウボラセンター 歯科衛生士 藤野ひとみ、江口佳奈	①小児慢性特定疾患患者及び障害児と保護者等 ② ③市原市三和保健福祉センター プレイルーム ④令和元年12月25日 午後2時30分～3時30分予定 ⑤案内文の送付 肢体不自由児者の会から案内 県ホームページへの掲載 ⑥FAX	12月開催	歯科衛生士 保健師(HC)	3 2
市川	就職支援事業	就労支援に関する講演会	1	5	5	目的 小児慢性特定疾患及び指定難病の受給者である患者やその家族が、長期に渡る療養をしながら、必要な情報や知識を得て将来の就労に向けた意識を持ち考えることができる。また、周囲の就労に関する相談者として必要な知識を得ることができる。 内容 講演:「小児慢性・指定難病受給者さんへの就労支援～私らしく働こう～」 講師:千葉公共職業安定所難病患者就職サポーター 芦沢久恵氏	①管内における小児慢性特定疾患受給者とその保護者、指定難病受給者、管内の教育機関等 ②5名 ③市川健康福祉センター 3階講堂 ④令和元年11月15日(金) 午前10時から正午まで ⑤個別通知、チラシ配布、県ホームページへの掲載 ⑥申し込み様式によりFAXにて申込みもしくは電話	千葉公共職業安定所(ハローワーク)が行う就労支援について実際の事例を踏まえながら講演していただいた。 講演後に参加者より活発な質問が挙がったことやアンケート結果から、参加者にとって就労に関する情報を得る有意義な機会になったと考えられる。	難病患者就職サポーター 保健師(HC)	1 3